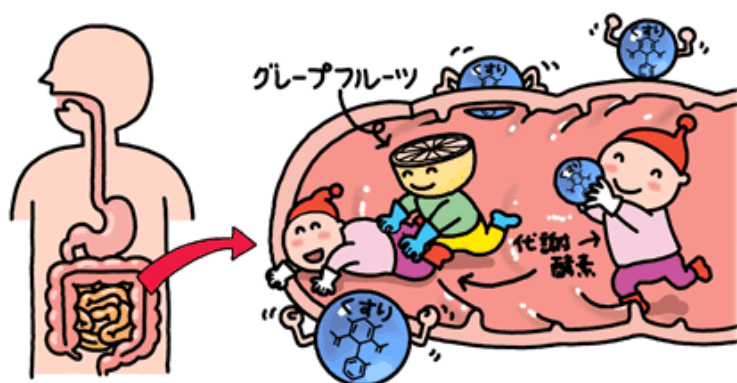


Q グレープフルーツジュースを避けるべきくすりがあるそうですが、どんなくすりですか。

免疫抑制剤（シクロスポリンなど）、高脂血症治療剤（シンバスタチンなど）、降圧剤（ニソルジピン、フェロジピンなど）など、一部の医薬品は、グレープフルーツジュースを飲むと効果が強く出たり、副作用が現れやすくなるおそれのあることが知られています。

グレープフルーツジュースを避けるべき医薬品は多数ありますので、新たなお薬が処方された時などは、薬剤師に確認されると良いでしょう。

なお、グレープフルーツと同じ柑橘類でも、ミカン、オレンジなどは影響を与えないといわれています。



解説

一般的に、飲みくすりの多くは、腸管で吸収され、体内で作用し、肝臓などの薬物代謝酵素で薬効のない物質に変化したり、腎臓から体外に尿と共に排出されます。さらにくすりによっては、最初に腸管で吸収されるときにも、腸管に存在する薬物代謝酵素の働きで代謝されます。

さて、グレープフルーツジュースには、この腸管での代謝酵素の働きを抑える物質が含まれているため、腸管で代謝される割合が減り、その結果体内に吸収される量が通常より増えてしまいます。このため、効果が強く出たり、副作用が現れやすくなると考えられています。さらにこの作用はグレープフルーツジュースを飲んだ日だけではなく、2～3日続く場合もあるといわれていますので注意が必要です。

なお、この酵素の働きを抑える物質は、グレープフルーツの果肉の部分にも含まれているようです。従って、ジュースだけではなく、果肉を食べる場合にも注意が必要といわれています。不明なことがあれば、医師や薬剤師に相談しましょう。

では、グレープフルーツ以外の柑橘系の影響はどうでしょうか？

【影響考えられるもの】

スウィーティー、メロゴールド、バンバイユ、ダイダイ、ブンタン、ハッサク
ライム、甘夏みかん、きんかん、ざくろ 等



【影響が少ないと考えられるもの】

デコポン、温州みかん、カボス、バレンシアオレンジ、マンダリンオレンジ、日向夏、
レモン、ゆず、リンゴ、ブドウ 等



上記食品については一例です。また、各種含有量は食品によっても異なることもあり、
また、薬剤分解酵素への影響は個人差が大きいことが知られていますので、あくまでも
摂取する上での参考としてご利用ください。不明な点がありましたら、医師や薬剤師に
相談ください。

【参考文献】

- PMID: 10606837 (2~3日続く)
- PMDA HP (Q&A)
- Saita T et al. Jpn. J. Pharm. Health Care Sci. 2006; 32:693-9 (食品含有量)